

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23500725

研究課題名(和文) グローバル化する社会におけるスポーツと格差・不平等に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive study on sport, disparity and inequality in globalization

研究代表者

尾崎 正峰(OZAKI, Masataka)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：20272768

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)： グローバル化する社会におけるスポーツと格差・不平等について、スポーツ社会学の領域をはじめとして、グローバリゼーション研究、国際社会学、都市社会学、移民研究などの関連する研究領域の理論動向を把握した。日本をはじめ、イギリス、南アフリカ、オーストラリア、アイルランドなどの地域において現地調査を実施し、各地のスポーツと格差・不平等の実態を実証的に明らかにすることができた。また、格差・不平等の是正を企図するスポーツによる社会開発、地域再生・活性化の実態を把握することができた。

研究成果の概要(英文)： In our research, we grasped trend of theory related to disparity and inequality in situation of globalization; such as sport sociology, globalization studies, international sociology, urban sociology and immigration research. We conducted field surveys in Japan, UK, South Africa, Australia and Ireland. So we achieve object that is to clarify empirically actual situations of sport, disparity and inequality in those countries. Secondly, to grasp actual situations of regeneration and social development of community through sport intended to correct disparity and inequality.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学、スポーツ科学

キーワード：スポーツ グローバリゼーション 格差 不平等

## 1. 研究開始当初の背景

(1)2003年11月17日の国連総会における決議において、スポーツを「教育、健康、開発および平和を促進する手段」としての意義と役割を高く評価し、その推進を述べている。あわせて、2005年を「スポーツと体育の国際年 (International Year of Sport and Physical Education)」とし、各国に体育・スポーツの振興を呼びかけた。しかし現実には、国際的な経済的格差とそれに伴う貧困に規定される形で、スポーツ機会の僅少な状況が発展途上国を中心に存在している。同時に、先進国といわれる地域においてもスポーツへのアクセスの困難を抱える多くの人々がいる。さらに言えば、格差・不平等の状況は、グローバル化が進む現代社会において、いっそう顕在化し、複雑化してきているととらえることができる。

(2)グローバル化の進展という状況下で、スポーツ社会学の領域でも、移民や国際的な労働力移動、貧富の偏差、先進国、途上国の事例を基として、従来までの規範の変容などの顕在化を意識し、現出する格差・不平等の問題に対してスポーツが果たす役割の可能性を追求した研究が現れてきている。テーマとしては、公共政策としてのスポーツの展開、多様な相違点がある中での社会統合の課題とスポーツが果たす役割 (移民、エスニシティ、などの観点も含みつつ) スポーツが社会開発に寄与する可能性について、などである。

## 2. 研究の目的

(1)グローバル化する社会におけるスポーツと格差・不平等について、関連する理論動向の把握と共に、時間的、空間的に多様なアプローチを用いつつ、海外調査、および国内調査によって、さまざまな視座から総合的に明らかにする。

(2)グローバル化、人の移動、エスニックマイノリティ、などのキーワードから、各国・地域のスポーツと格差・不平等の実態の諸相を実証的に明らかにすると共に、社会的、歴史的に考察する。

(3)格差・不平等の是正を企図するスポーツによる社会開発、地域再生・活性化の実態を把握し、考察を加える。

## 3. 研究の方法

(1)研究対象、および関連する領域 (グローバルイゼーション研究、国際社会学、都市社会学、移民研究、生活構造論、など) の著作、論文等の文献を収集し、理論研究の動向を把握、分析した。

(2)上記(1)で得た知見をふまえて、国内、および国外の国・地域を対象として、上記「研

究の目的」で述べたような多様なアプローチと視座をもって、フィールドワーク、資料収集 (各国・地域の図書館等に収蔵されている関連文書、関連団体の所蔵資料、および、行政資料等) を行った。この際、研究組織を構成するメンバー個々のフィールド調査の蓄積、および国内外の研究者とのネットワークを活用して効率的に研究を進めた。

## 4. 研究成果

(1)現代のグローバル化に関しては、経済のボーダーレス化が真っ先に取り上げられることが多いが、その根底には多様な人の移動という現象を伴っている。こうした人の移動の多様化という視点に関して、「移民国家」としての性格を歴史的に色濃く持っているオーストラリアについて歴史社会的な考察を行うと同時に、歴史的に自国の外に人を送り出す側に立ってきたアイルランドからオーストラリアへの移民に関して社会統合などの視点も含みつつ考察を加えた。こうした考察から、オーストラリアで展開されてきたスポーツにおいて、多文化主義のもとでの公平性の追求と同時に格差・不平等の残存という特質があることを明らかにした。

(2)「スポーツと開発」のテーマに関しては、社会開発、地域開発とスポーツに関する事例研究を積み重ね、そこに見いだされる特徴を抽出した。とくに、南アフリカの FIFA ワールドカップ大会、およびロンドンのオリンピック大会は、世界的なスポーツイベントであり、地域社会に及ぼす影響は多大なものであることが明らかとなった。そして、スポーツを媒介項とする社会開発について、従来からプラス面の強調されることが多かったが、貧困層に対する施策の不平等などの負の側面についても把握し、多層的な構造をもつことを示すことができた。

(3)国内における(社会)開発に関しては、「地域おこし」「地域再生」「地域活性化」等の言葉で語られるようになっている。こうした現状を、過疎地域の取り組み、沖縄におけるツーリズムなどを対象としてその実態をとらえた。そこにおいては、内発的および持続(可能)な発展を志向する上で、地域住民の主体性、相互の関係性の構築などが、大きな要素であることを示すことができた。

(4)日本、オーストラリア、ドイツ、イギリス等、各国の戦後のスポーツ政策の動向の把握を行ったが、とくに、日本のスポーツ政策の戦後過程を全体的に振り返り、「するスポーツ」を支える条件整備に関して考察を加えた。そこにおいて、戦後改革期に提起されたスポーツ政策、スポーツ振興の理念は豊かであったが、その後の実現過程において理念を実質化する手立てが必ずしも十分ではなかったこと、そのことにも起因して地域的な享

受の格差が生じてきていることを明らかにした。

(5)日本における子ども、青年のスポーツ機会について、学校の運動部活動を主たる対象として歴史と現状をとらえた。ここでは、部活動がさまざまな問題を含み込みながらも戦後長く存続し続けている構造を実態とともに明らかにした。また、暴力問題をはじめとする子ども・青年のスポーツの享受における格差の問題について、歴史的経緯と現状を把握し、問題が起こってくる構造を示した。

(6)上記の研究成果について、積極的に公表に努めた。関連する学会の企画シンポジウムのシンポジストとしての登壇など国内での発表にとどまらず、研究代表者のオーストラリアでの招待講演をはじめとして、海外で開催される学会での報告も数多く実施した。これらを基盤として、著作、論文などの形としてまとめ、さらなる研究成果の発信を行った。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計38件)

尾崎正峰、「Is Australia "Paradise of Sport"?-「オーストラリアにおけるスポーツの格差・不平等」試論-」、『一橋大学スポーツ研究』、32巻、3-12頁、2013年、査読なし

坂なつこ、「アイリッシュディアスポラとスポーツ研究 - オーストラリアを例に -」、『一橋大学スポーツ研究』、32巻、2013年、54-59頁、査読なし

尾崎正峰、「地域スポーツを支える条件の戦後史 - 指導者、とくに職員問題に注目して -」、『スポーツ社会学研究』、20巻第2号、2012年、37-50頁、査読なし

坂なつこ、「スポーツにあらわれる境界 : アイルランドとイギリス」、『現代スポーツ評論』、27巻、2012年、65-74頁、査読なし

SUZUKI, Naofumi, Introduction to the Feature: Towards an Interdisciplinary Collaboration on Post-Earthquake Reconstruction, *Disaster, Infrastructure and Society : Learning from the 2011 Earthquake in Japan*, 2012年、Issue2、6-13頁、査読なし

OZAKI, Masataka, A History of Post-war Sport Policy in Japan and the United Kingdom, *Hitotsubashi Journal of Social Studies* 43(2), 2011年、81-102頁、査読なし

岡本純也、「地域活性化策としてのスポーツ・ツーリズムの可能性」、『一橋大学スポーツ研究』、30巻、2011年、61-66頁、査読なし

SAKAUE, Yasuhiro, The End of Amateur

Hegemony in Japanese Sport, 1971-2003, *Hitotsubashi Journal of Social Studies* 43(2), 2011年、61-67頁、査読なし  
中澤篤史、「なぜ教師は運動部活動にかわり続けるのか：指導上の困難に対する意味づけ方に関する社会学的研究」、『体育学研究』、56巻、2011年、373-390頁、査読有り

〔学会発表〕(計15件)

発表者名：SUZUKI, Naofumi

発表標題：Right to the City and Sporting Mega Events: an Appraisal of the 'Sport and Development' Literature  
学会名等：Olympic Legacies: International Conference Impacts of Mega-Events on Cities

発表年月日：2013年9月4日-6日

(presented on 4th September 2013)

発表場所：University of East London (UK)

発表者名：OZAKI, Masataka

発表標題：The Disparity and Inequality of Sport in Japan

学会名等：MAJIT Program at University of Queensland (招待講演)

発表年月日：2013年8月9日

発表場所：University of Queensland (Australia)

発表者名：坂上康博

発表標題：日本スポーツ社会学会研究委員会シンポジウム「政治とスポーツ：ロンドンオリンピックをめぐるポリテクスを考える」

学会名等：日本スポーツ社会学会

発表年月日：2013年3月19日

発表場所：福山平成大学(広島県)

発表者名：NAKAZAWA, Atsushi

発表標題：Educational activity or heavy burden?: A postwar history of Japanese teachers coaching students in extracurricular sport clubs

学会名等：World Congress of International sociology of sports association

発表年月日：2012年7月17日

発表場所：Glasgow Caledonian University(UK)

発表者名：尾崎正峰

発表標題：「地域スポーツを支える条件の戦後史」粗描

学会名等：第21回日本スポーツ社会学会大会・研究委員会シンポジウム

発表年月日：2012年3月18日

発表場所：熊本大学(熊本県)

発表者名：OKAMOTO, Junya

発表標題：Comparative study of leisure tourist motivations and constraints between Japanese and inbound tourists -Churashima Cycle Race 2011 in Okinawa,

Japan-  
学会名等：10th Biennial Conference of  
Australia and New Zealand Association  
for Leisure Studies  
発表年月日：2011年12月6日  
発表場所：Otago University (New  
Zealand)  
発表者名：SUZUKI, Naofumi  
発表標題：Lasting Legacies, or  
Cherished Memories? The Impact of 2010  
FIFA World Cup onto the 'Sport for  
Development' Practices in South Africa  
学会名等：ISSA World Congress for  
Sociology of Sport  
発表年月日：2011年7月14日  
発表場所：Havana International  
Convention Centre (Cuba)

坂 なつこ (SAKA, Natsuko)  
一橋大学・大学院社会学研究科・教授  
研究者番号：00345456

岡本 純也 (OKAMOTO, Junya)  
一橋大学・大学院商学研究科・准教授  
研究者番号：00313437

鈴木 直文 (SUZUKI, Naofumi)  
一橋大学・大学院社会学研究科・准教授  
研究者番号：80456144

中澤 篤史 (NAKAZAWA, Atsusi)  
一橋大学・大学院社会学研究科・講師  
研究者番号：70547520

〔図書〕(計13件)

中澤篤史、青弓社、『運動部活動の戦後と  
現在 なぜスポーツは学校教育に結び付  
けられるのか』、2014年、358頁

坂上康博、かもがわ出版、「部活での暴  
力はいつから始まったか」、川口智久・  
三輪定宣編『先生、殴らないで！ 学校・  
スポーツの体罰・暴力を考える』（図書  
所収論文）、2013年、225頁 (pp.40-64)

SUZUKI, Naofumi、United Nations  
University Press、Post-growth  
community development and rediscovery  
of resources: A case of rural  
regeneration in a Japanese mountain  
village、Jin Sato (ed.) Governance of  
Natural Resources: Uncovering the  
Social Purpose of Materials in Nature  
(図書所収論文)、2013年、236頁  
(pp.183-201)

鈴木直文、創文企画、「FIFA ワールドカ  
ップと開発 2010年南アフリカ大会が示  
唆するもの」、日本スポーツ社会学会編  
『21世紀のスポーツ社会学』（図書所収  
論文）、2013年、271頁 (pp.140-158)

坂上康博、青弓社、「戦時下の映画と国家  
『民族の祭典』」、田崎宣義編『近代  
日本の都市と農村 激動の1910-50年  
代』（図書所収論文）、2012年、325頁  
(pp.227-258)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

尾崎 正峰 (OZAKI, Masataka)  
一橋大学・大学院社会学研究科・教授  
研究者番号：20272768

(2) 研究分担者

坂上 康博 (SAKAUE, Yasuhiro)  
一橋大学・大学院社会学研究科・教授  
研究者番号：10196058